

# 73 安全管理

## 外国人建設就労者に対する安全管理

宮崎県土木施工技士会  
日新興業株式会社

佐藤 豊明

### 1. はじめに

#### 工事概要

- (1) 工事名：宮崎218号高野地区改良工事
- (2) 発注者：九州地方整備局  
延岡河川国道事務所
- (3) 工事場所：宮崎県 西臼杵郡 日之影町
- (4) 工期：令和1年7月1日～  
令和2年5月29日

今回工事は、道路土工・法面工・補強土壁工を主体とした道路改良工事である。

### 2. 現場における問題点

建設業界においても昨今は労働者不足のあおりを受け、外国人労働者に頼らねば事業を継続していけない事例も多々ある。

今回の現場において、下請けの法面工事を請負う業者に、外国人建設就労者が数名入るとの報告を事前に受けた。

私ども地方の業者においては法律が整備されて以降の外国人就労者との現場は数えるほどの経験しかなく、施工体制台帳の整備を進めるとともに、国によって安全意識も異なる中で労働者不足の折せっかく日本まで来てもらいケガをさせて返すようなことがあってはならない、

今後につなげるためにも、まず第一に現場に応じた安全に対する理解を深め安全意識を高めてもらおうと考えた。



図-1 日々の安全確認

### 3. 工夫・改善点と適用結果

向こうではエリートの中から選ばれ、教育を受けて来ただけあって、日本に来て数カ月である程度の日本語もできる。かたことではあるが朝の一人KYKも職長が隣でフォローしながら自分で喋るし、書き込みも教えてもらいながら何とか出来る。そのような中でもこちらの理解してもらいたい事を正確に伝えるためには、言葉の壁を乗り越えることが一番の課題となる。

まず皆さんやっておられるであろう、ちょっとした工夫だが、スマートフォンの無料アプリ翻訳ソフトを活用した。10ヶ国以上は使用できるので、今回の就労生の母国語（インドネシア語）にも対応済みである。「おはよう」「足元に注意して」「そこは危険だから下がって」など、こちらで言った言葉を翻訳して音声で伝えてくれるので

大助かりであった。

次に工夫改善したのは、作業手順書である。ここからが一番理解して欲しいことであった。通常は職長を交えながら日本語でやりとりするし、日本の現場で働く訳なので今後のコミュニケーションの為にも日本語を主体にしたほうが良いと考えるのが普通である。

ただ安全に関する確認事項だけは行き違いがあってはならない、正確に把握して欲しいと思っていたので、法面作業に関する安全手順書をすべてインドネシア語に書き換えて、教育資料とした。新規入場時にその資料を中心として現場説明を行い、理解を深めてもらうこととした。

特に安全帯の点検や装着において、図解を交えながら丁寧に教育した。手順書による教育後は実際に現場での訓練とした。

結果として、このような工夫を行うと彼らも自分たちのために努力してくれていると感じ、目に見えて理解しようとする雰囲気伝わるとともに、現場に出ても危険箇所等の把握を自ら行っており、高い効果を得たと感じた。

なにせ翻訳の素人が作成したものなので言葉が違うなどと指摘を逆にうけながら、それすら互いの熱意を伝えながら確認の意味につながったと感じている。

改善すべき点としては、日々の安全指示事項等

も日本語と母国語でわかりやすく指示すると、彼らの理解も深まるとともに語学力の助けにもなると思われる。手間暇がかかることではあるが、安全には変えられないことである。

#### 4. おわりに

特に海外事業で活躍されている企業の方々にとっては珍しいことでもなく、多様な安全管理を行っていることと思われる。

私どものような地方の企業においても、このような細かな工夫から始めていけばと感じている。安全に簡素化はなく、積み重ねであると再認識している。

今回の現場は九州でも山間部で、雪の降る日もあった。「信じられない」と言いながら無事に請負分の現場を終え、笑顔で去って行った。

この報告を行っている最中にも、台風の影響で県内の建設業に来ておられた海外の方が2名行方不明になっている不幸な自然災害が発生している。

あと数年は日本にいるのだろうが、現在のコロナ危機が治まりいつの日か無事に母国に帰って活躍できることを願っている。

次回、またこのような機会があれば言語は変わるかもしれないが、さらに工夫して多国籍になっても誰もが安全に働ける現場を構築したい。

図-2 作業手順書